

全国、そして世界に広がる 学員ネットワーク

2013年の学員会本部の取り組みと支部の活動

中央大学では卒業生を「学員」と呼び、その累計数は53万人に上ります。これらの学員は全国各地、そして世界各国のさまざまな分野で活躍しています。この学員のネットワークを拡充・強化するのが学員会（同窓会）です。

学員会の目的は、学員相互の親睦を図り、学員の満足度を高め、母校の興隆・発展に寄与することです。そして、世界各地域、職種・企業等の職域、さらには卒業年次ごとにそれぞれ支部を結成して、目的達成に向けて活動を行っています。学員会はこうした支部に対して強力な支援を続け、「学員が行くところ、必ず学員の輪（支部・白門会）あり」となることを願っています。

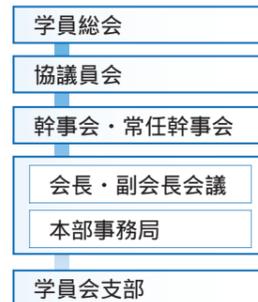


第90回箱根駅伝予選会では多くの学員が応援に駆けつけ、各支部ののぼり旗が上がった

学員会の基本方針

- 1 学員ネットワークを拡充・強化することにより、学員相互の親睦を深めること。
- 2 学員と中央大学との関係を密にし、互いに満足度を高めること。
- 3 中央大学の事業を支援し、母校の発展に寄与すること。
- 4 大学及び学員会の将来に資するための組織・規則等の見直しと方向付け。
- 5 既卒者からの会費増収策および白門支援金制度の推進と運営。

学員会の組織図



広報活動の一層の充実

学員時報とホームページによる
学員への情報発信

学員ネットワークを拡充・強化するためには、広報活動の充実が重要です。学員会では今年度も広報活動の充実に向けて力を入れています。



学員会の広報活動としては、まず『中央大学学員時報』（「時報」）の発行があげられます。昭和41年（1966年）に創刊した「時報」は学員会の機関紙（会報）として、学員の活躍や、学員会が実施する事業・行事の内容、

支部の活動などのほか、母校の近況を年4回（5月・9月・1月・3月）お届けして、卒業生と母校を結びパイプの役割を果たしています。

また、紙媒体である「時報」を補うものとして、学員会の公式ホームページでは、イベントや支部の情報をいち早くお届けしています。さらに、「学員専用ページ」では、「時報」のバックナンバーや、「時報」に掲載しきれなかった支部からの投稿などを見ることができます。インターネット利用者の増加に対応し、学員会では今後もWebを利用した広報活動の充実を図っていきます。

『中央大学学員時報』は学員会費納入者で住所等送付先がわかっている方へは毎月（年4回）学員会費未納の方へは年2回（5月・1月）送付しています。

学員の交流の場を提供

《白門サロン》の
地方都市への展開も計画

学員会は学員の交流の場づくりにもさまざまに取り組んでいます。学員会

本部事務局のある駿河台記念館7階には、学員・教職員同士の交流の場、親睦を深める場として《白門サロン》を開設しています。

学員が気楽に立ち寄れるこの《白門サロン》は、今後さらに地方都市にも展開していく計画です。



気軽に立ち寄れる『白門サロン』。(日・祝・夏季一斉休暇・年末年始一斉休暇および大学が定めた休業日を除く)

学員会支部名に「白門」推進

地域・職域・年次で
全231支部（2013年10月現在）

学員会の「地域支部」は全国にあり、各都道府県に1支部、北海道、福島、東京、神奈川、静岡などには複数あります。その数は海外（13支部）を含めて116支部となっています。また、職種別で組織する「職域支部」が54支部、卒業年次ごとの「年次支部」も61支部が組織されています。

これら全231支部は学員会本部に統

合されていますが、支部の運営、活動などは、その支部の自主性に委ねられています。支部によっては講演会、旅行会、新年会、ゴルフコンペ、囲碁・将棋大会などさまざまな催しを企画して、会員相互の親睦を深めるとともに、情報交換を行っています。

この「支部」は学員会本部が認定した同窓会組織の単位で、規約に公認の規定があります。過去、支部の名称使用についても規定がありましたが、現在は母校のブランドである「白門」を努めて使用するよう既存支

部に「白門」「白門会」への呼称変更や、新支部結成に際しての「白門会」の呼称採用を積極的に働きかけています。

また、これらの公認する支部以外にも、企業、県庁、市区役所などには多くの白門会組織があり、盛んに活動しています。いずれも年齢層が幅広く、また職業などもさまざまですが、母校の興隆を願う会員の集まりです。



後輩のキャリア支援

学員会各支部が
学生の就活を支援



大手企業に勤めるOGによる懇談会（11月9日、第19回ウイングの会）

女性学員の支部である女性白門会では毎年11月、多摩キャンパスで「ウイングの会」を開催しています。今年で19回目となるこの会では、卒業後、ビジネス分野で活躍するOGの講演と、志望する有名企業の内定を獲得した学生の体験発表を行っており、毎回、就活を控えた女子学生が多数参加しています。

卒業年次ごとの支部の連絡組織である年次支部協議会は11月16日に開催された「CHUO進路相談会」を後援しました。この相談会は、各方面で活躍する卒業年次が若い学員の、自身の就活経験

をもとに後輩にアドバイスする機会として好評です。

また経済人の学員で組織される南甲倶楽部では、商学部の総合講座「働くこと入門」の講師の選定に協力しています。この講座は、就活前の学生に自らの体験を生かしつつ「働くこととは何か」を問い語りかける内容で、講師には毎回、ビジネス界で活躍する学員が当たっています。

さらに、公認会計士白門会では商学部でのシリーズ講義や会計士受験者向けの就職説明会を行っています。

周年行事の開催

「伝統ある支部」の活動、
ますます盛んに

今年の支部の周年行事としては、昭和38年卒業生の白門三八会が、4月20日、東京・新宿の京王プラザホテルにて「卒業50年記念祝賀会」を盛大に開催しました。145名という多数の参加者があり、

松本将男支部長は「卒業後の厳しい競争を勝ち抜き、卒業50年を祝うことができることに、御苦労さまでたと申し上げたい」と語っています。

また、南甲倶楽部は、1月28日、東京會館に約450名を集め「創立60周年記念式典」を開催。通信教育の卒業生の組織である信窓会は6月8日、約150名の参加を得て、リーガロイヤルホテル東京で「創立60周年記念式典」を

開催しています。

学員会の歴史が刻まれる中で、こうした周年行事や記念式典が各地で活発に開催されています。



2013年に卒業50年を迎えた白門三八会